

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年5月14日(2009.5.14)

【公開番号】特開2007-262248(P2007-262248A)

【公開日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【年通号数】公開・登録公報2007-039

【出願番号】特願2006-89788(P2006-89788)

【国際特許分類】

C 09 D 175/04	(2006.01)
C 09 D 5/02	(2006.01)
C 09 D 5/28	(2006.01)
B 05 D 7/24	(2006.01)
D 06 N 3/00	(2006.01)
C 09 D 133/00	(2006.01)
C 09 D 161/24	(2006.01)
C 09 D 183/04	(2006.01)
C 09 D 163/00	(2006.01)
C 09 D 161/28	(2006.01)
C 09 D 123/12	(2006.01)
C 09 D 123/06	(2006.01)
C 09 D 177/00	(2006.01)
C 09 D 127/12	(2006.01)

【F I】

C 09 D 175/04	
C 09 D 5/02	
C 09 D 5/28	
B 05 D 7/24	3 0 2 T
B 05 D 7/24	3 0 3 H
D 06 N 3/00	
C 09 D 133/00	
C 09 D 161/24	
C 09 D 183/04	
C 09 D 163/00	
C 09 D 161/28	
C 09 D 123/12	
C 09 D 123/06	
C 09 D 177/00	
C 09 D 127/12	

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月27日(2009.3.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

比較例1～3

上記実施例1～4と同様にして上記の材料を下記表1に示すように固形分比率でそれぞ

れ配合して4種の水系艶消しコーティング剤を得た。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

上記実施例1～4および比較例1～3で得た各コーティング剤をポリ塩化ビニルシート(以下、PVCシートという)上に120メッシュのグラビアプリンターを用いて塗工し、120℃で2分間ギヤオーブンで乾燥することによって被膜を形成した。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

上記実施例1～4、比較例1～3で得た表面に被膜を形成したPVCシートについて、均一塗工性、漆黒性、真空成形性、耐薬品性、耐光性等の性能テストを行った。その結果は表1に示した。なお、これらテストの評価方法および評価基準は次の通りである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

【表1】

	実 施 例				比 較 例		
	1	2	3	4	1	2	3
水系ポリウレタン樹脂分散液(PUD-1)	100	100	100	100	100	100	100
架橋アクリルビーズ(平均粒径2μm)	80	—	100	—	—	—	350
架橋ウレタンビーズ(平均粒径2μm)	—	150	100	180	—	—	—
シリカ粉末(TS-100)	—	—	—	10	10	20	—
シリカ粉末(E-220A)	—	—	—	—	20	—	—
架橋剤(E-04)	8	10	12	10	4	10	10
均一塗工性	○	○	○	○	×	×	△
漆黒性	△	○	○	○	△	△	△
真空成形性	4	5	4	4	3	3	2
耐薬品性	4	4	5	4	1	4	3
耐光性	4	4	4	4	3	3	3

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

上記表1から、この発明で得た水系艶消しコーティング剤を用いてPVCシート上に形成した被膜は何れも良好な結果を示した。これに対して比較例1～3による被膜は、均一塗工性、漆黒性に劣り、また真空成形性、耐薬品性、耐光性にも劣っていた。